

# 高温に伴う農作物管理対策について

気象災害対策H27-4  
平成27年5月20日  
農林総合研究センター

## I 気象概況

新潟地方気象台から「高温に関する異常天候早期警戒情報」が発表されています。気象情報では、5月23日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれます。

今後の気象情報に注意し、農作物の適切な管理に努めてください。

## II 農作物の管理対策

### 1 水稻

- (1) 好天により雑草の発生が早まっており、中期除草剤の散布に当たっては雑草の葉数を確認し、高温時(28℃以上)・低温時(15℃以下)をさけて散布して葉害防止に努める。
- (2) イネミズゾウムシの侵入が早まっており、5月20日頃の成虫密度が10株に3頭以上になった水田では直ちに防除する。

### 2 野菜・花き

#### (1) 露地栽培

播種、定植直後の水不足は発芽、活着を悪くするため、かん水施設の準備を行なっておく。

8月咲きのキクは側枝の伸長期であり極端な乾燥が続くと花芽分化に悪影響を及ぼすため、翌朝まで萎れが回復しない場合はかん水する。

#### (2) 施設栽培

施設上部に達した成長点や花芽が高温障害を受けやすくなるため、妻窓などによる換気を行なう。

急激な高温で乾燥する場合は根の水分吸収が追いつかず、水分不足による萎れやカルシウム欠乏等の要素欠乏症の発生が懸念される。

通路散水による空中湿度の確保やカルシウム入りの葉面散布を行なう。

#### (3) 病害虫の発生

害虫の発生が早まる可能性があるため、病害虫発生予察情報に留意し適切な防除管理を行う。

### 3 果樹

#### (1) ハウス内の温度管理

ぶどう、いちじく等のハウス栽培では、ハウス内の高温による生育障害を招きやすいので、上部も換気し、高温にならないよう適切な温度管理に努める。

#### (2) かん水等による土壌水分の管理

- ① 高温時には、樹体からの水分蒸散が激しくなるので、高温状態が長期間続く場合はかん水を行う。かん水量の目安は、5～7日間隔で1回 20mm程度とする。
- ② かん水施設がない園では、少量の用水で効果が期待できる簡易な点滴かん水を行う。
- ③ 清耕栽培園などの乾燥が著しい場所や根の浅い場所では、土壌からの水分蒸発を防止するため。敷き草や敷きわら等のマルチを行う。
- ④ 草生栽培園では、雑草との水分競合を避けるため、草丈 20cm を限度に除草するものとするが、地表を裸地化するとかえって園地の乾燥を助長するので、極端な低刈りは行わない。刈草は樹冠下のマルチに利用する。

#### (3) 計画的な管理作業の実施

- ① 日本なし、りんご等では、幼果の発育期に高温、乾燥が続くと果実肥大が不良となる。かん水のほか、摘果で結果量を早めに調節し、果実の初期肥大を確保する。
- ② これから開花期を迎えるぶどう、かき等では、生育が前進化しているので、花穂の整形やジベレリン処理（ぶどう）、摘らい（かき）等の作業が適期になされるよう、計画的に作業を進める。

#### (4) 病虫害防除

- ① 高温・乾燥が続くとハダニ類の多発が予想される。随時園内をまわりながら葉裏のハダニを確認し適期防除に努める。
- ② 高温・乾燥状態が長いと樹体の衰弱から葉害が発生しやすくなるため、防除の際は散布濃度に注意し、朝又は夕方の涼しい時間帯に行う。

## 気象情報

高温に関する異常天候早期警戒情報（北陸地方）

平成27年5月18日14時30分

新潟地方気象台 発表

要早期警戒（気温）

警戒期間 5月23日頃からの約1週間

対象地域 北陸地方

警戒事項 **かなりの高温（7日平均地域平年差+2.0℃以上）**

確率 **30%以上**

今回の検討対象期間（5月23日から6月1日まで）において、北陸地方では、5月23日頃からの1週間は、気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれます。

農作物の管理等に注意してください。また、今後の気象情報に注意してください。  
なお、北陸地方では、昨日までの1週間、気温の高い状態が続いています。

今後も1週目から2週目にかけて気温の高い状態が続く見込みです。